

地域・在宅看護論概論

訪問看護ステーション設営演習お疲れ様でした。

	投票の理由
1G	古河や坂東あたりの医療の手薄さは実感してて、もう少し発展してくれてもいいなと前から思っていたため、訪問看護ステーションができれば、その地域に住む人の不安や負担が軽減すると考えたから。 坂東市は高齢化率が高い上に、療養病床や慢性期の病床が少なく、疾患を抱えながら生活する人が多いとわかった。そのことから、疾患を持っていても高齢者が住み慣れた自宅で安心して療養できるような施設を作るという理由がはっきりしていて、その場所にその機能を持った訪問看護ステーションを作る意味もとても感じられて良いと思った。さらに、服薬指導はもちろんのこと、食事の指導や合併症予防も支援しており、病院だけではなかなか手が届かないところまで見てくれるところに価値を感じた。それにより再入院や重症化を防ぐことができるし、在宅でのリハビリ、認知症ケアなど色々してもらえるので、疾患を持った高齢者が必要とすることを提供してくれる、とても魅力的な訪看だと思った。
2G	高萩市は、グラフや写真などから、高齢者人口が多いことや沢山の観光場所があることをしり、その高齢者たちがどんな場所で暮らしをしてきたのかということ踏まえて、最後までその人らしい生活を送ることをPRとしていたから。
3G	高齢者を対象とした訪問看護ステーションが多い中で、母子に目を向けている点がとても良いと思いました。24時間LINEで相談できるといった運営の工夫が育児で忙しかったり不安やストレスを抱えていたりする親にとっては手軽で安心感につながると思いました。 LINEで24時間対応しており、気軽にいつでも連絡をできる点がとても良いと感じました。また、小児限定であり、これまで訪問看護は高齢者を対象とするところが多かったので、新鮮であり、少子高齢化である日本にとって重要になるのではないかと思います。医療的ケア児コーディネーターと連携をすることで、一般の看護より、より個別性に特化し、質の高い看護を提供することができるのではないかと思います、魅力的に感じました。これらの理由から投票しました！
4G	訪問看護ステーションの名前から情熱が伝わり、利用者一人一人に熱い気持ちで寄り添っているのが伝わったから。
5G	水戸市で訪問看護サービスを提供する上で、まず水戸市がどのような医療的な政策を行っているのか、さらに必要なサービスはどのようなものかを具体的に企画されていた。 自立を目指すというコンセプトが他のグループにはなくていいなと思ったから。内容がしっかりしていて詳細が詳しく伝わったのと、水戸市に設置するという視点がいいなと思ったから。地域の特色を生かしていいと感じたから
6G	これからの未来が託される赤ちゃんや子供に視点を置いて、深くわかりやすくまとまっていたところが良かった。乳幼児のみを見るのではなく、その母親や家族までのケアを具体的に考えられていた点も、現実性がありとても良いと感じた。 訪問看護ステーションと聞くと、どうしても高齢者に目を向けがちになってしまうけど、乳幼児や小児とその母親に目を向けていたところが魅力的だと感じたため。また、施設のサービス内容や具体的なPRなども無理のない範囲で設定されていて、その分質の高い看護提供になると思ったのと、その施設では担いきれないメンタルヘルスに関してや出産に関しては他の医療機関と連携できる体制を整えていて、他の班よりも現実味があってよかった。
7G	利用者以外の電話相談が可能などところに特定の地域住民だけでなく地域全員を支えようとする気持ちがすごく見られたため。
8G	地域の特色の、りんごやおやきを利用して交流を増やすと言ったところが素敵だと感じました！ 利用者やその家族が孤立せず生活できるように、地域の特色を生かした交流イベントや生きがい、居場所づくりが考えられていたから。地域の特色を生かすことは、対象の身体的ケアに繋がるだけでなく、同時に地域活性にも貢献されるから。

授業の感想

自分が住んでいる市町村で訪問看護ステーションを設立すると発表した班がいて、自分の住んでいるところが住みやすい地域でも視点を変えたら住みにくさだったり、必要な医療機関やサービスなどの利用の難しさがあるのだということを知ることができました。また、水戸市など身近な市町村が抱えている課題にどのように対応して、利用者のニーズに応えていくのかということをも自分の班で考えただけでなく気づけなかった問題点や課題などについても知ることができたので、対象者と地域社会への見方や向き合い方に生かしていきたいです。

訪問看護がどこで必要なのか誰が対象となるのかそれぞれの発表を聞いて、幅広い世代に訪問看護が必要であり、重要視されていくのだと学ぶことができました。また、各地域の特異性を有効的に活用しながら、看護をすることでよりその地域に住んでいる利用者さんにとって寄り添う看護ができるのではないかと考えました。自分では、知らなかった専門職や連携を知ることができよかったです。

訪問看護ステーションを実際に考えてみて、訪問看護は医療的なケアを行うだけでなく、利用者さんが住み慣れた自宅でその人らしく生活できるように支える仕事なのだと改めて感じた。特に、看護師だけでなくPT・OT・STやケアマネジャーなど、多職種が連携して利用者さんを支えることの大切さを学んだ。また、要介護状態になった方を支援するだけではなく、今できていることを維持し、介護度が上がることを予防するという視点も重要だと感じた。ステーションのサービスや対象者、スタッフの配置、地域のニーズなどを考えることで、実際に運営するためには多くのことを考える必要があることも理解できた。今回の活動を通して、利用者さん本人だけでなく、家族の負担や安心も考えながら支援することが大切だと感じた。将来、利用者さんが「できるだけ自宅で生活したい」と思ったときに、その思いに寄り添える看護をしていきたい。

他の班の発表を聞いて、今まで自分にはなかった視点で、訪問看護ステーションを作っていて新鮮だった。それぞれ、誰を対象にするのか、何を中心に行うのか、多様な意見を知ることができて大きな学びになった。

自分で訪問看護ステーションをつくるということで、どこにつくるのがいいのか、どんなサービス内容が必要なのかを考え調べることで、地域の特性や訪問看護ステーションはどのようなサービスを行っているのかをより詳しく学ぶことができた。また、色々なグループの訪問看護ステーションについての発表を聞いて、対象者によって行うサービス内容は異なってくると学び、これから実習で訪問看護にいく際には、対象者とサービス内容に目を向けていきたいと考えた。